

多様性について

江津市立青陵中学校 一年 (氏名非公表希望)

多様性について、自分が興味を持ち始めたのは小学四年生の頃でした。

自分は当時、違和感を感じていました。自分の体は女なのに心は男でも女でもない、誰にも相談できなくてずっと悩んでいました。

自分が小学六年生の頃、学校では人権集会がありました。その集会でゲストとして来ておられた、佐藤みどりさんのお話を聞きました。「『自分らしく生きていいんだ』という気持ちをもってほしい。だれもがそう思える社会を目指したい」と言っておられて、「え、自分らしく生きていてもいいんだ!」と思えました。でも同時に、自分らしく振舞って、周りからどう思われるのだろう、と不安でした。

翌日、私は思い切って親友に相談してみました。

「私、心の性別、どっちでもないんだよね。」

と。

すると親友はこう言いました。

「それがどうしたの?心がどっちでもなくても〇〇は〇〇でしょ?」

と。親友の言葉を聞いて、自分はうれしくなりました。そして親に頼み、髪を短くしました。

そして小学校の制服もスカートからズボンに変えました。学校に行くと、友達から言われました。

「〇〇ちゃんズボンに変えたの!?似合ってるよ!」

このこともあり、『ああ自分らしくしていいんだ。好きな格好をしてもいいんだ。』と心から思えました。このように自分は、周りの人に恵まれて自分の好きなようにできました。

世界には約十人に一人、LGBTQ+の人がいます。でも、その人々を理解してくれない人、過度な偏見を持った人などいろいろな意見をもつ人もいます。でもその人たちの前で自分の気持ちを隠しながらがまんして生きること、それはとてもつらいことです。

自分らしくしたら文句を言われる。その人は生きがいを感じることができず、苦しく毎日を過ごすことになるかもしれません。

では、どうしたらその人たちは自分らしく楽しく生活を送れるでしょうか?自分の場合は、周りに認めてもらうことで、楽になれました。考えてみると周りから認めてもらうことで少しでも楽になれるのではないのでしょうか?

自分らしく生きられず、苦しく生きている人はこの世界にたくさんいます。自分は、「自分らしく生きることが当たり前」といえる!いろんな人たちが、「自分らしく、自由に生きることができる!」そんな社会にしたいです。

そのために、まず自分は、いろんな人の意見を、批判するのではなく、受け入れることから始めようと思います。

みんなが互いを尊重しあえば、この世界は生きやすい世界に変わるのではないでしょう

か？